

## 助言例（令和7年度版）

### 助言1 廃棄時に分別が必要となる商品や放置ビニール傘の処分方法

#### 廃棄時に分別が必要な商品

- ・フードバンクへの提供、フードドライブ活動、子ども食堂への提供、従業員への配布等を実施する
- ・食品リサイクル施設のある処理業者へ委託する
- ・賞味期限が間近となった商品として販売する

#### 放置ビニール傘

- ・レンタル傘として利用する
- ・無料のお持ち帰り用傘として利用する
- ・寄付として受け入れてくれる事業者へ提供する

## 助言2 分別を徹底することによるメリット・デメリット及び廃棄物量の把握方法

### メリット

- ・ 処理コストの削減（導入前と比べ約35%減の実績あり）
- ・ 従業員の意識向上
- ・ 企業イメージの向上
- ・ 委託業者との良い関係性を構築でき（業者の負担軽減）、契約見直しもしやすくなる

### デメリット

- ・ 分別作業のための人員確保（手間の増加）
- ・ 情報のアップデート及び周知が大変である

### 廃棄物量の把握方法

- ・ ごみ袋のサイズと袋数に基づき算出する方法（例：45L × ○袋 × ○kg/袋 = ○kg）
- ・ 収集運搬業者へデータの提出を依頼（詳細なデータ提供を契約条件として求める）
- ・ 手順を明文化し具体的な運用ルールに従って運用を維持することが重要です

## 助言3 家庭ごみの持込対策（店舗、事務所等）として、効果的な対策や事例

### ごみ箱の配置の変更

- ・ 人の監視が行き届く場所へ設置・移動（人の目の届く場所）させる
- ・ 監視カメラがある場合は、カメラ設置の張り紙等によりカメラの存在を認識させる
- ・ ごみ箱を設置しない（リサイクル用のみ設置）

### 啓発方法の事例

- ・ 処理費用などの実際に掛かっている費用を掲示する  
（店舗）利用者に対し現状の課題の共有化を図る
- ・ SDGsな考え方を周知（掲示）する

## 助言4 建物の管理事業者主体としてできる減量化・資源化の取組

### 減量化・資源化量の把握方法

- ・テナントごとにごみ袋の色を変える
- ・指定ごみ袋を設定（処分代込み）し、管理事業者から各テナントへ販売し運用する

### 各テナントへの啓発方法

- ・総排出量やリサイクル率、削減率を公開・掲示する
- ・処理費用を公開する
- ・建物全体及びテナントごとの減量化・資源化の情報を公開することで、全体の意識の底上げを図る

### 契約時に可能ならば

- ・建物全体の環境方針や分別の義務化を明記する
- ・廃棄物の分別・排出手順書による教育を実施する